夢のつばさプロジェクト

2017 冬キャンプ　学生報告書

【日程】2017 年 12 月 23 日（土）～26 日（火）
【開催地】(株)ブリヂストン保養所　奥多摩園（青梅市）
【参加者】子ども：21 名（小学生 12 名、中学生 5 名、高校生 3 名、専門学校生 1 名）
学生スタッフ：32 名（途中入れ替わりも含む）
OBOG スタッフ：16 名（同上）
社会人スタッフ/協力者：9 名（同上）

◆2017 冬キャンプについて

今回のキャンプでは、学生のこれまで歩んできた道を示すことで、子どもたちが自分の将来について考える時のヒントとしてほしいという思いを込めました。また、”受験生プログラム”という初の試みを実施いたしました。キャンプを楽しみながらも自分の決めた時間には切り替えて勉強をする子どもたちの様子はとても頼もしかったです。

◆スケジュール・概要

	１日目 （１２月２３日）	２日目 （１２月２４日）	３日目 （１２月２５日）	４日目 （１２月２６日）
午前	送迎	クリスマスボール作り	自由企画	閉会式
午後	開会式 アイスブレイク ゆめ活	学生の人生劇場	未来予想図	送迎
夜		音楽会 クリスマス会	ユメトーク	

＜１日目＞

◆開会式

開会式では、キャンプテーマとルールの発表、お世話になる社会人スタッフの方々と奥多摩園の方々へのご挨拶、初参加の子どもたちの自己紹介を行いました。

◆アイスブレイク

今回は、「キコリとオオカミ」、「名前ゲーム」という２つの簡単なゲームを行いました。「キコリとオオカミ」は、ルールに従って色々な人と３人組を作っていくというゲームで、体を動かしながら自然と子どもたちの緊張が解けていく様子を見ることができました。「名前ゲーム」は、隣の人の自己紹介を覚えながら自分の自己紹介をするゲームで、初めて参加する子どもや学生がキャンプの雰囲気に馴染むことができました。

◆ゆめ活

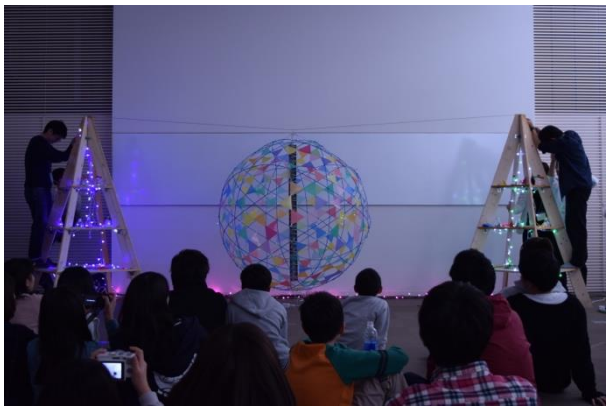
前回のキャンプに続いて行われた企画でした。“ゆめ”のつばさで“活”躍できる“活”動の略で、学生の仕事を子どもたちにやってもらうという企画でした。

前回のキャンプよりも自主性を意識していて、どんな役割ができるか、それぞれの役割の中でどの時間帯に活動をするかなどを子どもたち自身に考えてもらいました。

その結果、以前よりもより積極的に自分の役割をこなす子どもたちの様子をたくさん見ることができました。

＜２日目＞

◆クリスマスボール作り



建築のプロフェッショナルである岩城先生にお越しいただき、クリスマスツリーとクリスマスボールを作りました。

子どもも学生も真剣に岩城先生の指示に従って作業をこなしていき、クリスマスボールが完成した際には感嘆の声があがりました。

ツリーとボールが完成した後は、イルミネーションなど装飾の準備をしました。中高生以上の子どもたちは高い身長を生かしてイルミネーションをツリーに巻きつけて、小学生の子どもたちはボールにカラフルな装飾をつけていく作業をするなどと、それぞれが自分にできることを見つけて仕事をしていたのが印象的でした。

最後は、点灯式を行いました。自分たちが作ったクリスマスツリーとクリスマスボールがカラフルに神秘的に光る様子に子どもたちも感動している様子でした。

◆学生の人生劇場

この企画では、学生のこれまで歩んできて学んだことや子どもたちに伝えたいことを映画にして、子どもたちに見てもらいました。映画を見ている子どもたちの様子はとても真剣で、学生の伝えたい気持ちが届いたのではないかと思います。

また、映画を上映するだけでなく、その映画の主役となった学生が直接子どもたちに思いを伝える時間がありました。学生の熱い思いに子どもたちも心を打たれたようで、感想タイムには「私も今の夢をあきらめないようにしようと思った」など、嬉しい言葉を聞くことができました。

◆音楽会

社会人スタッフのお一人の白井優次様が素敵なハープの演奏家である宮田悠貴様をご紹介くださり、コンサートを開いてくださいました。

クリスマスイブの夜ということもあり、馴染みのあるクリスマスソングを中心に素晴らしい演奏をしてくださり、感動せずにはいられませんでした。また、ハープという楽器の演奏を聴く機会はめったにあることではないので、とても貴重な経験をすることができました。

今回はフルートと鍵盤ハーモニカを持参してくれた子どもたちと音楽家の方が「きよしこの夜」を披露してくれました。

◆クリスマス会

音楽会の後には、磯内康嗣様がサンタクロースの格好をして子どもたちにプレゼントを手渡してくださいました。プレゼントは株式会社サンリオ様から頂いたもので、人気のキャラクターのものに子どもたちも大喜びでした。その場で中身を開けて嬉しそうにしている子どもたちの様子は非常に微笑ましいものでした。クリスマスイブの特別な夜になったのではないかと思います。

＜３日目＞

◆自由企画

この企画は、子どもたちが自分たちで遊びを考えて企画を実施するというもので、３人の子どもたちが１日目と２日目に時間をかけて考えてくれた企画を行いました。当日は、たくさんの子どもたちが参加して「叩いてかぶってじゃんけんぽん」など子どもたちが考えたゲームをする楽しい時間になりました。

企画を考える時間には、どうすれば周りのみんなが楽しんでくれるかを真剣に考える子どもたちの様子を見ることができて、成長を強く感じました。

◆未来予想図

この企画では、小学生と中高生に分かれて自分の将来について考えました。

小学生は“人生すごろく”を作成しました。自分の未来をすごろくのコマとして埋めてもらうことで自分の未来を楽しく想像しました。高校ではこんな部活に入る、将来はこんな仕事をするなど自由に自分の思い描くものを書いてもらいました。学生と話しながら楽しい雰囲気ですごろくを作っている様子が印象的でした。

中高生には“マインドマップ”を書いてもらいました。自分の好きなものや頑張っているものなどから、たくさんのものを連想して繋げていき、結果として自分の夢につながる“夢のタネ”を見つけていきました。子どもたちは、学生から話を聞いて参考にしながらも真面目に書いていました。短時間でたくさん書く子や時間をかけて考えながら少しずつ埋めていく子など、個人差はありましたがみんなが真剣に自分の未来に向き合っている姿が見られました。

◆ユメトーク

未来予想図で見つけた“夢のタネ”をさらに深めていくために、中高生を対象に自分の将来や夢について学生と語り合うという企画でした。

進路や将来に不安を持っている子どもも多く、そうした子どもたちにとって、学生の話を聞いたり、自分の話を聞いてもらったりという時間はとても貴重な時間であったと思います。

＜4日目＞

◆閉会式

閉会式では、4日間を通して行ったゆめ活の振り返りや恒例のスライドショーの鑑賞をしました。

また、受験生プログラムでキャンプを楽しみながらも勉強を頑張った子どもたちに受験応援メッセージを渡しました。

そして子どもたちから、お世話になった社会人スタッフの方々と奥多摩園の方々にお礼の挨拶をしました。小学校3年生の女子二人が、自分たちで考えて作った台本を握りしめて感謝の気持ちを伝えました。その姿はとても頼もしかったです。

多くの皆様に支えられて、7年目の冬の活動を実施することができましたことを心より感謝申し上げます。今回のキャンプでは、徐々に年齢が上がっていく子どもたちに対応して、”受験生プログラム”という初の試みも実施しました。キャンプを楽しみながらも自分の決めた時間には切り替えて勉強をする子どもたちの様子は頼もしく、学生たちも担当を決めて一生懸命指導にあたりました。「集中して勉強することができた」と言う嬉しい感想をもらっています。みなで志望の高校合格の良い知らせを待っています。

学生代表 お茶の水女子大学理学部 2年　山村椎奈